日刊 県民福井　2019年9月13日（金）

命の大切さ 子どもに伝えて

AED活動絵本 福井の図書館に配置

新着図書のコーナーに置かれている絵本「いのち の ばとん」＝福井市立図書館で

自動体外式除細動器（AED）の普及啓発活動を行っているNPO法人「命のバトン」（福井市）の活動を題材にした絵本が、全国各地の図書館に寄贈され、県内では福井市立図書館などに置かれている。

絵本のタイトルは「いのち のばとん」。自然災害や救助活動に関する実話を脚本化し、語りや音楽で伝えているNPO法人「防災一人語り推進グループ」（東京都）が製作した。

同グループは、「命のバトン」代表の川崎真弓さんが、学校の体育祭中に娘を亡くした経験を基に、AEDや心肺蘇生法の普及に取り組んでいる活動を題材にした舞台を、今年から東京都や福井市で上演している。命の大切さと救命に対する意識を多くの人に高めてもらえるようにと、絵本も製作し、全国の図書館に寄贈している。

公募により川崎市の女性(三三)が描いた絵を載せた冊子と文章だけの冊子の二種類があり、いずれもB5判、十五ページ。十二日までに全国十二カ所の図書館に贈った。

福井市立図書館は今年四月に文章だけの冊子、六月に絵入りの冊子を、郷土資料として受け入れた。保存・閲覧用のほか、新着図書のコーナーで紹介しており、一部は貸し出しも可能となっている。

川崎真弓さんは「命の大切さや救命について子どもに伝える絵本ができ、手に取ってもらえるようになってありがたい」と話す。

県内ではほかに、県立図書館、福井市みどり図書館、同市桜木図書館にも置いている。

（坂本碧）

◎ 絵本の作画者は、佐々木 曜（ささき・よう）さん

◎「防災一人語り」推進グループは、任意のボランティア団体